



# DLT コマンド

この章では、Cisco ONS 15454 SDH の DLT（削除）コマンドについて説明します。

## 10.1 DLT-<MOD1PAYLOAD>

Delete（削除）（10GFC、10GIGE、1GFIC、1GFICON、1GISC3、2GFC、2GFICON、2GISC3、4GFC、4GFICON、D1VIDEO、DV6000、EC1、ESCON、ETRCLO、GIGE、HDTV、ISC3PEER1G、ISC3PEER2G、ISC3PEER2R、ISCCOMPAT、STM4、STM64、STM1、STM16、T3）

**使用上のガイドライン** プラットフォーム別にサポートされる修飾子については、[表 27-1 \(p.27-1\)](#) を参照してください。指定されたポートを削除します。

**カテゴリ** ポート

**セキュリティ** プロビジョニング

**入力形式** DLT-<MOD1PAYLOAD>:[<TID>]:<AID>:<CTAG>[:::];

**入力例** DLT-GIGE:TID:FAC-5-1:1;

入力パラメータ	パラメータおよび値	内容
	AID	

## 10.2 DLT-<MOD\_RING>

Delete (削除) (MS-SPRing)

### 使用上のガイドライン

Network Element (NE; ネットワーク要素) の Multiplex Section Shared Protection Ring (MS-SPRing) を削除します。

エラーメッセージが返されるアクションは以下のとおりです。

- IOR の取得中にシステムで障害が発生すると、SROG (Status, Get IOR Failed) エラーメッセージが返されます。
- AID が無効の場合、IIAC (Invalid AID) エラーメッセージが返されます。
- BLSR が存在しない場合、SRQN (MSSPR Does Not Exist) エラーメッセージが返されます。
- 無効なクエリーを指定すると、SROF (Facility Not Provisioned) または SROF (Cannot Access MSSPR) エラーメッセージが返されます。
- MS-SPRing が使用中の場合は、SROF (MSSPR In Use) エラーメッセージが返されます。
- 無効な削除クエリーを指定すると、SRQN (MSSPR Deletion Failed) エラーメッセージが返されます。



(注) このコマンドでは、ALL AID は無効です。



(注) このリリース (R7.0) では、AID のリスト形式がサポートされます。

### カテゴリ

MS-SPRing

### セキュリティ

プロビジョニング

### 入力形式

DLT-<MOD\_RING>:[<TID>]:<AID>:<CTAG>[:::];

### 入力例

DLT-MSSPR:PETALUMA:MSSPR-2:123;

### 入力パラメータ

パラメータおよび値	内容
AID	アクセス ID (「 <a href="#">25.1.2 AidUnionId1</a> 」[p.25-9] を参照)。NE の MS-SPRing を識別します。ALL または MSSPR-ALL AID は、MS-SPRing の編集には使用できません。

## 10.3 DLT-BULKROLL<STM\_TYPE>

Delete Bulkroll (一括ローリングの削除) (STM4、STM64、STM1、STM16)

### 使用上のガイドライン

試行されたファシリティの一括ローリング操作を削除するか、試行されたローリング操作を完了します。このコマンドは、回線レベルの一括ローリングに使用されます。単一パスレベルのローリングには DLT-ROLL-<MOD\_PATH> を使用します。

プラットフォーム別にサポートされる修飾子については、表 27-1 (p.27-1) を参照してください。

### カテゴリ

ブリッジおよびロール

### セキュリティ

プロビジョニング

### 入力形式

```
DLT-BULKROLL-<STM_TYPE>:[<TID>]:<FROM>:<CTAG>:::
[RFROMSTART=<RFROMSTART>],[RFROMEND=<RFROMEND>],WHY=<WHY>;
```

### 入力例

```
DLT-BULKROLL-STM4:CISCO:FAC-1-1:6:::RFROMSTART=VC4-1-1-1,
RFROMEND=VC4-1-1-11,WHY=STOP;
```

### 入力パラメータ

パラメータおよび値	内容
<b>FROM</b>	片方のエンドポイント。回線レベルローリングおよび一括ローリングのアクセス ID (「25.1.12 FACILITY」 [p.25-17] を参照)。
<b>RFROMSTART</b>	送信元ロールポートの開始時刻スロット。一括ローリングのみ。AID については、「25.1.9 CrossConnectId1」 [p.25-13] を参照してください (VC または VC11)。
<b>RFROMEND</b>	送信元ロールポートの終了時刻スロット。一括ローリングのみ。AID については、「25.1.9 CrossConnectId1」 [p.25-13] を参照してください (VC または VC11)。
<b>WHY</b>	削除理由 パラメータタイプは WHY (削除理由) です。
• END	ロール対象のレグをドロップ。ENT-ROLL/ENT-BULKROLL で RFROM により識別されるレグです。
• STOP	ローリング操作は停止され、前のコンフィギュレーションに戻されます。

## 10.4 DLT-CRS-<PATH>

Delete Cross-Connection (クロスコネクットの削除) (VC3、VC44C、VC38C、VC464C、VC48C、VC36C、VC4、VC416C、VC42C、VC43C、VC12)

### 使用上のガイドライン

プラットフォーム別にサポートされる修飾子については、表 27-1 (p.27-1) を参照してください。  
VC パス間のクロスコネクットを削除します。VC パスは、その VC AID を使用して指定します。



(注)

- CTAG の後のフィールド (末尾のコロン) は省略できます。
- 単方向のクロスコネクットの場合は、AID を最初に入力したのと同じ順序で指定する必要があります。双方向のクロスコネクットの場合は、どちらの順序でも機能します。
- このコマンドでは、複数の VC クロスコネクットを削除できません。
- このコマンドの AID フィールドで「&」を使用すると、Subnetwork Connection Protection (SNCP) Virtual Container (VC; 仮想コンテナ) クロスコネクットを削除できます。
  - 次のポイントで、単方向セレクトまたは双方向セレクトとブリッジを削除するには、次のコマンドを使用します。  
開始ポイント : F1、F2  
終了ポイント : T1  
DLT-CRS-{VC\_PATH}:[<TID>]:F1&F2,T1:<CTAG>;
  - 次のポイントで、単方向ブリッジまたは双方向セレクトとブリッジを削除するには、次のコマンドを使用します。  
開始ポイント : F1  
終了ポイント : T1、T2  
DLT-CRS-{VC\_PATH}:[<TID>]:F1,T1&T2:<CTAG>;
  - 次のポイントで、単方向または双方向従属 SNCP 接続を削除するには、次のコマンドを使用します。  
開始ポイント : F1、F2  
終了ポイント : T1、T2  
DLT-CRS-{VC\_PATH}:[<TID>]:F1&F2,T1&T2:<CTAG>;
  - 削除コマンドの AID 形式は、取得されたレスポンス メッセージの AID 形式と同じです。たとえば、取得した AID の出力が「F1&F2,T1:CCT,VC4」の場合、このクロスコネクットを削除するには、この AID 形式 (F1&F2,T1) を使用して削除コマンドを実行する必要があります。
  - SNCP IDRI クロスコネクットを削除するには、次のコマンドを使用します。  
DLT-CRS-{VC\_PATH}:[<TID>]:A&B,C&D:<CTAG>;  
A : リング Y からのトラフィックがブリッジされるリング X 上のパス  
B : 同一リングからのトラフィックがブリッジされるリング X 上のパス  
C : リング X からのトラフィックがブリッジされるリング Y 上のパス  
D : 同一リングからのトラフィックがブリッジされるリング Y 上のパス  
A、B、C、および D は位置を示します。接続タイプ 2WAYDC は、SNCP IDRI クロスコネクットに使用されます。
  - SNCP Dual-Ring Interconnect (DRI; デュアルリング相互接続) クロスコネクットを削除するには、次のコマンドを使用します。  
DLT-CRS-{VC\_PATH}:[<TID>]:A&B,C:<CTAG>;  
A : リング Y からのトラフィックがブリッジされるリング X 上のパス  
B : 同一リングからのトラフィックがブリッジされるリング X 上のパス

C : リング Y で送受信されるトラフィック

A、B、および C は位置を示します。接続タイプ 2WAYDC は、SNCP DRI 相互接続に使用されます。

- TL1 クロスコネク ト コマンドでのすべての A&B AID は、WorkingAID&ProtectAID の形式になります。
- 追加のドロップが接続オブジェクトに追加された場合は、実装時の動作に問題が発生する場合があります。
- ファシリティ AID は、G1K-4 カードを入れるスロットに対してだけ有効です。
- 仮想ファシリティ AID (VFAC) は、ML シリーズ カードを入れるスロットでだけ有効です。
- CKTID は ASCII 形式の文字列です。CKTID は 48 文字以内で指定できます。CKTID を空またはヌルにすると、フィールドは表示されません。

**カテゴリ**

クロスコネク ト

**セキュリティ**

プロビジョニング

**入力形式**

DLT-CRS-<PATH>:[<TID>]:<SRC>,<DST>:<CTAG>[::CKTID=<CKTID>],[CMDMDE=<CMDMDE>];

**入力例**

DLT-CRS-VC44C:VINBURG:VC4-1-1-1,VC4-12-1-1:102:::CKTID=CKTID,CMDMDE=CMDMDE;

**入力パラメータ**

パラメータおよび値	内容
SRC	送信元 AID (「25.1.9 CrossConnectId1」 [p.25-13] を参照)
DST	宛先 AID (「25.1.9 CrossConnectId1」 [p.25-13] を参照)
CKTID	タイプは string です。
CMDMDE	<p>コマンド モード。FRCD モードの処理では、Unlocked-Enabled または Locked-Disabled, AutomaticInService サービス ステータスから Virtual Concatenated (VCAT; 仮想連結) メンバー クロスコネク トを削除することができます。</p> <p>パラメータ タイプは CMDMDE (持続状態に関係なく、指定されたコマンドを強制的に実行する) です。すべてのコマンドは、デフォルトで NORM モードで動作します。ただし、FRCD を指定して、通常はコマンドが拒否されるような状態を、強制的に無効にすることもできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• FRCD 通常はコマンドが拒否されるような状態を、強制的に無効にします。</li> <li>• NORM コマンドを通常どおりに実行します。コマンドが失敗する可能性のある状態を無効にはしません。</li> </ul>

## 10.5 DLT-EQPT

Delete Equipment (機器の削除)

### 使用上のガイドライン

NE からカードを削除します。

このコマンドは、特定のスロットに対して入力されたカード タイプやアトリビュートを削除します。割り当てられたすべてのファシリティも削除されます。カードが保護グループの一部であったり、カードにクロスコネクト エンドポイントがある場合、コマンドは拒否されます。

DLT-EQPT コマンドにより、使用されなくなったシェルフも削除されます。シェルフを削除できるのは、機器が存在しない場合、または機器およびそのアトリビュートが使用中ではなく削除可能である場合に限られます。後者の場合、SHELF-**{1-8}** の 1 つの REPT-DBCHG のみが報告されます。ノードコントローラ シェルフ (シェルフ ID が 1 であるシェルフ) は、削除できません。

保護グループの一部に含まれるカードを削除する場合は、最初に ED-EQPT コマンドを使用して保護グループからそのカードを削除する必要があります。

機器を削除する場合のエラー条件は次のとおりです。

- 次の状況ではエラー メッセージ SPLD (Equipment In Use) が返されます。
  - カードが保護グループに含まれている場合
  - カードにクロスコネクトまたは DCC/GCC/OSC 終端またはプロビジョニング可能パッチコード終端がある場合
  - そのファシリティのいずれかが、同期ソースとして使用されている場合



(注)

カードがプロビジョニングされていない場合は、エラー メッセージが返されます。

### カテゴリ

機器

### セキュリティ

プロビジョニング

### 入力パラメータ

DLT-EQPT:[<TID>]:<AID>:<CTAG>[:::];

### 入力例

DLT-EQPT:SONOMA:SLOT-1:104;

### 入力パラメータ

パラメータおよび値	内容
AID	アクセス ID (「 <a href="#">25.1.11 EQPT</a> 」 [p.25-16] を参照)。操作を実行する機器ユニット (スロット) を識別します。

## 10.6 DLT-FFP-<MOD2DWDMPAYLOAD>

Delete Facility Protection Group (ファシリティ保護グループの削除) (10GFC、10GIGE、1GFC、1GFICON、1GISC3、2GFC、2GFICON、2GISC3、4GFC、4GFICON、D1VIDEO、DV6000、ETRCLO、GIGE、HDTV、ISC1、ISC3、PASSTHRU)

**使用上のガイドライン** クライアント ファシリティ上の Y 字型ケーブル保護を削除します。

**カテゴリ** DWDM

**セキュリティ** プロビジョニング

**入力形式** DLT-FFP-<MOD2DWDMPAYLOAD>:[<TID>]:<SRC>,<DST>:<CTAG>[::];

**入力例** DLT-FFP-HDTV:CISCO:FAC-1-1-1,FAC-2-1-1:100;

入力パラメータ	パラメータおよび値	
	パラメータ	内容
	<b>SRC</b>	送信元 AID (「 <a href="#">25.1.12 FACILITY</a> 」 [p.25-17] を参照)
	<b>DST</b>	宛先 AID (「 <a href="#">25.1.12 FACILITY</a> 」 [p.25-17] を参照)

## 10.7 DLT-FFP-<STM\_TYPE>

Delete Facility Protection Group (ファシリティ保護グループの削除) (STM4、STM64、STM1、STM16)

**使用上のガイドライン** プラットフォーム別にサポートされる修飾子については、[表 27-1 \(p.27-1\)](#) を参照してください。  
1+1 アーキテクチャの Synchronous Transfer Mode (STM; 同期転送モード) ファシリティ保護グループを削除します。



**(注)** 保護グループが存在しない場合は、エラーメッセージが返されます。

**カテゴリ** 保護

**セキュリティ** プロビジョニング

**入力形式** DLT-FFP-<STM\_TYPE>:[<TID>]:<WORK>,<PROTECT>:<CTAG>[::];

**入力例** DLT-FFP-STM1:PETALUMA:FAC-2-1,FAC-1-1:1;

**入力パラメータ**

パラメータおよび値	内容
WORK	現用ファシリティ AID ( <a href="#">「25.1.12 FACILITY」 [p.25-17]</a> を参照)
PROTECT	保護ファシリティ AID ( <a href="#">「25.1.12 FACILITY」 [p.25-17]</a> を参照)



## 10.8 DLT-LNK

Delete Optical Link (光リンクの削除) (OCH、OMS、OTS)

**使用上のガイドライン** 2つの光接続ポイント間の光リンクを削除します。光リンクは、関係している光接続ポイントの AID を使用して指定されます。

**カテゴリ** DWDM

**セキュリティ** プロビジョニング

**入力形式** DLT-LNK:[<TID>]:<FROM>,<TO>:<CTAG>;

**入力例** DLT-LNK:PENNGROVE:BAND-6-1-TX,BAND-13-1-RX:114;

入力パラメータ	パラメータおよび値	内容
	FROM	光リンクの片方の端の ID (「 <a href="#">25.1.3 BAND</a> 」 [p.25-9] を参照)
	TO	光リンクのもう一方の端の ID (「 <a href="#">25.1.3 BAND</a> 」 [p.25-9] を参照)

## 10.9 DLT-LNKTERM

Delete a Provisionable Patchcord Termination (プロビジョニング可能パッチコード終端の削除)

### 使用上のガイドライン

ノード上にあるプロビジョニング可能パッチコード終端を削除します。リンクを完全に削除するためには、リンク/プロビジョニング可能パッチコードの終端地点をすべて削除する必要があります。



(注)

このコマンドは、複数の AID を受け入れますが、ALL AID は受け入れません。



(注)

リンク終端が存在しない場合は、対応するエラーが返されます。

### カテゴリ

プロビジョニング可能なパッチコード

### セキュリティ

プロビジョニング

### 入力形式

DLT-LNKTERM:[<TID>]:<AID>:<CTAG>;

### 入力例

DLT-LNKTERM::LNKTERM-1:CTAG;

### 入力パラメータ

パラメータおよび値	内容
AID	アクセス ID (「 <a href="#">25.1.16 LNKTERM</a> 」 [p.25-20] を参照)。ローカル ノード上にあるリンク (プロビジョニング可能パッチコード) 終端を示します。

## 10.10 DLT-OCHCC

Delete Optical Channel Client Connection (DLT-OCHCC) コマンドは、OCH クライアント接続を削除します。

**使用上のガイドライン** なし

**カテゴリ** DWDM

**セキュリティ** プロビジョニング

**入力形式** DLT-OCHCC:[<TID>]:<AID>:<CTAG>[::<CKTID>=<CKTID>],[<CMDMDE>=<CMDMDE>];

**入力例** DLT-OCHCC:VA454-22:FAC-2-1-1:116::<CKTID>="OCHCC-1",<CMDMDE>=FRCD;

### 入力パラメータ

<b>AID</b>	アクセス ID (「 <a href="#">25.1.12 FACILITY</a> 」 [p.25-17] を参照)。
<b>CKTID</b>	クロスコネクト ID。デフォルトは、Blank または None です。ASCII 文字の文字列。長さは 48 文字以内です。CKTID を空欄またはヌルにすると、CKTID フィールドは表示されません。
<b>CMDMDE</b>	パラメータ タイプは コマンド モード (持続状態に関係なく、指定されたコマンドを強制的に実行する) です。すべてのコマンドは、デフォルトで NORM モードで動作します。ただし、FRCD を指定して、通常はコマンドが拒否されるような状態を、強制的に無効にすることもできます。
<ul style="list-style-type: none"> <li>FRCD</li> <li>NORM</li> </ul>	<p>通常はコマンドが拒否されるような状態を、強制的に無効にします。</p> <p>コマンドを通常どおりに実行します。コマンドが失敗する可能性のある状態を無効にはしません。</p>

## 10.11 DLT-OCHNC

(Cisco ONS 15454) Delete Optical Channel Network Connection (DLT-OCHNC) コマンドは、OCH ネットワーク接続を削除します。

**使用上のガイドライン** ノード内の波長チャネルを識別するため、2つのネットワーク接続チャネルエンドポイントを指定する必要があります。

**カテゴリ** DWDM

**セキュリティ** プロビジョニング

**入力形式** DLT-OCHNC:[<TID>]:<SRC>,<DST>:<CTAG>:::[CKTID=<CKTID>],[CMDMDE=<CMDMDE>];

**入力例** DLT-OCHNC:VA454-22:CHANWL-1-3-TX-1530.33,  
CHANWL-4-1-RX-1530.33:116:::CKTID=CIRCUIT,CMDMDE=FRCD;

<b>入力パラメータ</b>	<b>SRC</b>	送信元アクセス ID (「 <a href="#">25.1.6 CHANNEL</a> 」 [p.25-11] を参照)。双方向波長接続の送信元では、両方向を示す必要があります。
	<b>DST</b>	宛先のアクセス ID (「 <a href="#">25.1.15 LINEWL</a> 」 [p.25-20] を参照)。双方向波長接続の送信元では、両方向を示す必要があります。
	<b>CKTID</b>	クロスコネクト ID。デフォルトは、Blank または None です。ASCII 文字の文字列。長さは 48 文字以内です。CKTID を空欄またはヌルにすると、CKTID フィールドは表示されません。
	<b>CMDMDE</b>	パラメータ タイプは コマンド モード (持続状態に関係なく、指定されたコマンドを強制的に実行する) です。すべてのコマンドは、デフォルトで NORM モードで動作します。ただし、FRCD を指定して、通常はコマンドが拒否されるような状態を、強制的に無効にすることもできます。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>FRCD</li> </ul>	通常はコマンドが拒否されるような状態を、強制的に無効にします。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>NORM</li> </ul>	コマンドを通常どおりに実行します。コマンドが失敗する可能性のある状態を無効にはしません。

## 10.12 DLT-OSC

Delete Optical Service Channel (光サービス チャンネルの削除)

**使用上のガイドライン** NE の OSC グループを削除します。

**カテゴリ** DWDM

**セキュリティ** プロビジョニング

**入力形式** DLT-OSC:[<TID>]:<AID>:<CTAG>;

**入力例** DLT-OSC:PENNGROVE:OSC-1:114;

<b>入力パラメータ</b>	<b>AID</b>	アクセス ID ( <a href="#">「25.1.19 OSC」 [p.25-21]</a> を参照)。NE の OSC グループを識別します。
----------------	------------	---

## 10.13 DLT-RMONTH-<MOD2\_RMON>

Delete Remote Monitoring Threshold (RMON スレッシュホールドの削除) (10GFC、10GIGE、1GFC、1GFICON、2GFC、2GFICON、4GFC、4GFICON、FSTE、G1000、GFPOS、GIGE、OCH、POS)

### 使用上のガイドライン

RMON アラーム テーブル内のスレッシュホールド エントリを削除します。特定の MONTYPE に対して複数のスレッシュホールドが作成される可能性があるため、削除する特定のスレッシュホールドに必要なパラメータをすべて指定する必要があります。

プラットフォーム別にサポートされる修飾子については、表 27-1 (p.27-1) を参照してください。

すべてのオプションパラメータのデフォルト値は、NE のデフォルト値になります。これらの値は、パラメータの現在の値とは異なる場合があります。現在の値を取得するには、RTRV-XX コマンドを実行してください。

### カテゴリ

パフォーマンス

### セキュリティ

プロビジョニング

### 入力形式

```
DLT-RMONTH-<MOD2_RMON>:[<TID>]:<SRC>:<CTAG>::<MONTYPE>,,,<INTVL>:
RISE=<RISE>,FALL=<FALL>,[SAMPLE=<SAMPLE>],[STARTUP=<STARTUP>][:];
```

### 入力例

```
DLT-RMONTH-GIGE:CISCO:FAC-2-1:1234::ETHERSTATSOCTETS,,,100:RISE=1000,FALL=100
SAMPLE=DELTA,STARTUP=RISING;
```

### 入力パラメータ

SRC	送信元アクセス ID (「25.1.12 FACILITY」 [p.25-17] を参照)。データ統計を管理するファシリティの AID です。
MONTYPE	監視対象のタイプ。RMON 監視対象データ統計のタイプです。 パラメータタイプは、ALL_MONTYPE (監視対象タイプのリスト) です。
• AISSP	Alarm Indication Signal (AIS; アラーム表示信号) の秒数 - パス
• ALL	使用可能なすべての値
• BBEP	SDH バックグラウンドブロック エラー - パス
• BBE-PM	OTN - バックグラウンドブロック エラー - パス監視ポイント
• BBER	SDH バックグラウンドブロック エラー率
• BBER-PM	OTN - バックグラウンドブロック エラー率 - パス監視ポイント (パーミル値)
• BBER-SM	OTN - バックグラウンドブロック エラー率 - セクション監視ポイント (パーミル値)
• BBE-SM	OTN - バックグラウンドブロック エラー - セクション監視ポイント
• BIEC	FEC - ビットエラー修正済み
• CGV	8B10B - コードグループ違反
• CVCPP	コーディング違反 - CP ビットパス
• CVL	コーディング違反 - 回線

• CVP	コーディング違反 - パス
• CVS	コーディング違反 - セクション
• CVV	コーディング違反 - セクション
• DCG	8B10B - データ コード グループ
• ESCPP	エラー秒数 - CP - ビットパス
• ESL	エラー秒数 - 回線
• ESP	エラー秒数 - パス
• ES-PM	OTN - エラー秒数 - パス監視ポイント
• ESR	エラー秒数 - 率
• ESR-PM	エラー秒数率 - パス監視ポイント (パーミル値)
• ESR-SM	エラー秒数率 - セクション監視ポイント (パーミル値)
• ESS	エラー秒数 - セクション
• ES-SM	OTN - エラー秒数 - セクション監視ポイント
• ESV	エラー秒数 - VC パス
• etherStatsBroadcastPkts	受信したマルチキャストアドレス宛ての良好パケット数の合計
• etherStatsCollisions	衝突する伝送パケット数
• etherStatsCRCAAlignErrors	長さが 64 ~ 1518 オクテット (フレーム構成ビットを除く、ただし Frame Check Sequence [FCS] オクテットは含む) の受信パケット数の合計
• etherStatsDropEvents	ポート レベルで廃棄された受信フレーム数
• etherStatsFragments	受信した 64 オクテット未満のパケット数の合計
• etherStatsJabbers	受信した 1518 オクテット超のパケット数の合計
• etherStatsOctets	データのオクテット数の合計
• etherStatsOversizePkts	受信した 1518 オクテット超のパケット数の合計
• etherStatsPkts	受信したパケット数の合計 (不良パケット、ブロードキャストパケット、マルチキャストパケットを含む)
• etherStatsUndersizePkts	受信した 64 オクテット未満のパケット数の合計
• FCP	障害カウント - 回線
• FC-PM	OTN - 障害カウント - パス監視ポイント
• FC-SM	OTN - 障害カウント - セクション監視ポイント
• HP-AR	アベイラビリティ率
• HP-BBE	高次パスのバックグラウンドブロック エラー
• HP-BBER	高次パスのバックグラウンドブロック エラー率
• HP-EB	高次パスのエラー ブロック
• HP-ES	高次パスのエラー秒数
• HP-ESA	高次パスのエラー秒 - A
• HP-ESB	高次パスのエラー秒 - B
• HP-ESR	高次パスのエラー秒数率
• HP-FC	高次パスの障害カウント
• HP-NPJC-PDET	高次パスの負のポインタ位置調整カウント
• HP-NPJC-PGEN	高次パスのポインタ位置調整カウント
• HP-OI	停止強度
• HP-PJCDIFF	高次パスのポインタ位置調整カウントの差異

## 10.13 DLT-RMONTH-&lt;MOD2\_RMON&gt;

• HP-PJCS-PDET	高次パスのポインタ位置調整カウント
• HP-PPJC-PDET	高次パスの正のポインタ位置調整カウント
• HP-PPJC-PGEN	高次パス、正のポインタ位置調整カウント
• HP-SEPI	使用可能時間内の SEP イベント数
• HP-SES	高次パスの重大エラー秒数
• HP-SESR	高次パスの重大エラー秒数率
• HP-UAS	高次パスの使用不可秒数
• ifInBroadcastPkts	前回のカウンタ リセット以降、受信したブロードキャスト パケット数
• ifInDiscards	着信パケット数
• ifInErrorBytePktss	受信エラー バイト
• ifInErrors	エラーを含む着信パケット (または伝送ユニット) 数
• ifInFramingErrorPkts	受信フレーム構成エラー
• ifInJunkInterPkts	受信インターパケット ジャンク
• ifInMulticastPkts	前回のカウンタ リセット以降、受信したマルチキャスト パケット数
• ifInOctets	前回のカウンタ リセット以降、伝送されたバイト数
• ifInUcastPkts	前回のカウンタ リセット以降、受信したユニキャスト パケット数
• ifOutBroadcastPkts	伝送されたブロードキャスト パケット数
• ifOutDiscards	送信パケット数
• ifOutErrors	エラーのため伝送できなかった送信パケット (または伝送ユニット) 数
• ifOutMulticastPkts	伝送されたマルチキャスト パケット数
• ifOutPayloadCrcErrors	受信ペイロード Cyclic Redundancy Check (CRC; 巡回冗長検査) エラー
• ifOutUcastPkts	伝送されたユニキャスト パケット数
• IOS	8B10B - アイドル順序セット
• IPC	無効なパケット カウント
• LBCL-AVG	平均レーザー バイアス電流 ( $\mu\text{A}$ )
• LBCL-MAX	最大レーザー バイアス電流 ( $\mu\text{A}$ )
• LBCL-MIN	最小レーザー バイアス電流 ( $\mu\text{A}$ )
• LBCN	SMT1-8 の正規化レーザー バイアス電流
• LBCN-HWT	レーザー バイアス電流
• LBCN-LWT	レーザー バイアス電流
• LOSSL	Loss of Signal (LOS; 信号損失) の秒数 - 回線
• LP-BBE	低次パスのバックグラウンドブロック エラー
• LP-BBER	低次パスのバックグラウンドブロック エラー率
• LP-EB	低次パスのエラー ブロック
• LP-ES	低次パスのエラー秒
• LP-ESA	低次パスのエラー秒 - A
• LP-ESB	低次パスのエラー秒 - B
• LP-ESR	低次パスのエラー秒数率
• LP-FC	低次パスの障害カウント
• LP-NPJC-DET	低次の負のポインタ位置調整カウント、検出



• LP-NPJC-GEN	低次の負のポインタ位置調整カウント、生成
• LP-PPJC-DET	低次の正のポインタ位置調整カウント、検出
• LP-PPJC-GEN	低次の正のポインタ位置調整カウント、生成
• LP-SEP	3 ~ 9 の連続する重大エラー秒数 (SES)
• LP-SEPI	低次パスの重大エラー期間
• LP-SES	低次パスの重大エラー秒数
• LP-UAS	低次パスの使用不可秒数
• MS-PSC	保護スイッチ カウント
• MS-PSD	保護スイッチ時間
• NIOS	8B10B - 非アイドル順序セット
• NPJC-PDET	負のポインタ位置調整、パス検出
• NPJC-PGEN	負のポインタ位置調整、パス検出
• OPR-AVG	平均受信パワー (1/10 $\mu$ W)
• OPR-MAX	最大受信パワー (1/10 $\mu$ W)
• OPR-MIN	最小受信パワー (1/10 $\mu$ W)
• OPRN	STM1-8 の正規化光受信パワー
• OPRN-MAX	OPRN の最大値
• OPRN-MIN	OPRN の最小値
• OPT-AVG	平均送信パワー (1/10 $\mu$ W)
• OPT-MAX	最大送信パワー (1/10 $\mu$ W)
• OPT-MIN	最小送信パワー (1/10 $\mu$ W)
• OPTN	STM1-8 カードの光送信パワーの正規化された値
• OPTN-MAX	OPTN の最大値
• OPTN-MIN	OPTN の最小値
• OPWR-AVG	光パワー - 平均間隔値 (1/10 dBm)
• OPWR-MAX	光パワー - 最大間隔値 (1/10 dBm)
• OPWR-MIN	光パワー - 最小間隔値 (1/10 dBm)
• PPJC-PDET	正のポインタ位置調整、パス検出
• PPJC-PGEN	正のポインタ位置調整、パス検出
• PSC	保護スイッチング カウント
• PSC-R	保護スイッチング カウント - リング
• PSC-S	保護スイッチング カウント - スパン
• PSC-W	保護スイッチング カウント - 現用
• PSD	保護スイッチング時間
• PSD-R	保護スイッチング時間 - リング
• PSD-S	保護スイッチング時間 - スパン
• PSD-W	保護スイッチング時間 - 現用
• SASCPP	重大エラー フレーム構成 /AIS 秒数 - CP ビット パス
• SASP	重大エラー フレーム構成 /AIS 秒数パス
• SEFS	重大エラー フレーム構成秒数
• SESCOPP	重大エラー秒数 - CP ビット パス
• SESL	重大エラー秒数 - 回線
• SESP	重大エラー秒数 - パス

• SES-PM	OTN - 重大エラー秒数 - パス
• SESR	重大エラー秒数 - 率
• SESR-PM	OTN - 重大エラー秒数率 - パス監視ポイント (パーミル値)
• SESR-SM	OTN - 重大エラー秒数率 - セクション監視ポイント (パーミル値)
• SES	重大エラー秒数 - セクション
• SES-SM	OTN - 重大エラー秒数 - セクション監視ポイント
• SESV	重大エラー秒数 - VC パス
• UASCPP	不可秒数 - CP ビット パス
• UASL	不可秒数 - 回線
• UASP	不可秒数 - パス
• UAS-PM	OTN - 不可秒数 - パス監視ポイント
• UAS-SM	OTN - 不可秒数 - セクション監視ポイント
• UASV	不可秒数 - VC パス
• UNC-WORDS	FEC - 修正不可ワード
• VPC	有効パケット カウント
<b>INTVL</b>	データがサンプリングされて、上限スレッシュホールドおよび下限スレッシュホールドと比較される間隔 (秒数)。有効な値は 10 (秒) 以上の整数値です。
<b>RISE</b>	サンプリングされた統計情報の上限スレッシュホールド。有効な値は任意の整数です。
<b>FALL</b>	下限スレッシュホールド。有効な値は、上限スレッシュホールドよりも小さい任意の整数です。
<b>SAMPLE</b>	スレッシュホールドと比較される対象の値を計算する方法 パラメータ タイプは、SAMPLE_TYPE (サンプリング期間中のデータの計算方法を記述) です。
• ABSOLUTE	直接比較します。
• DELTA	選択された変数の、最後のサンプルで差し引かれた現在の値と比較します。
<b>STARTUP</b>	最初の有効なサンプルが上限スレッシュホールド以上か下限スレッシュホールド以下、あるいはその両方である場合に、イベントを生成するかどうかを指示します。 パラメータ タイプは、STARTUP_TYPE で最初の有効なサンプルが上限スレッシュホールドまたは下限スレッシュホールドを超えた場合にイベントが生成されるかどうかを示します。
• FALLING	サンプルが下限スレッシュホールドよりも小さい場合はイベントが生成されます。
• RISING	サンプルが上限スレッシュホールドよりも大きい場合はイベントが生成されます。
• RISING-OR-FALLING	サンプルが上限スレッシュホールド、または下限スレッシュホールドを超える場合はイベントが生成されます。

## 10.14 DLT-ROLL-<MOD\_PATH>

Delete Roll (ロールの削除) (VC44C、VC464C、VC48C、VC4、VC416C、VC42C、VC43C)

### 使用上のガイドライン

試行されたファシリティのローリング操作を削除するか、試行されたローリング操作を完了します。

プラットフォーム別にサポートされる修飾子については、表 27-1 (p.27-1) を参照してください。



(注)

このリリースでは、このコマンドに対して VC11、VC12 および VC3 はサポートされていません。

### カテゴリ

ブリッジおよびロール

### セキュリティ

プロビジョニング

### 入力形式

DLT-ROLL-<MOD\_PATH>:[<TID>]:<FROM>,<TO>:<CTAG>::WHY=<WHY>;

### 入力例

DLT-ROLL-VC4:CISCO:VC4-1-1-1,VC4-2-1-1:6::WHY=STOP;

### 入力パラメータ

<b>FROM</b>	送信元アクセス ID (「25.1.28 VC」 [p.25-24] を参照)。既存のクロスコネクットの片方の終端地点 (レグ)。既存のクロスコネクットが片方向の場合、終端地点 (レグ) は FROM-AID 終端地点になります。それ以外の場合、FROM は重要ではありません。FROM と TO は、ENT-CRS コマンドで入力されたとおりに入力する必要があります。RTRV-CRS コマンドを発行して、FROM および TO パラメータにレスポンスを使用できます。
<b>TO</b>	宛先 AID (「25.1.28 VC」 [p.25-24] を参照)。既存のクロスコネクットの片方の終端地点 (レグ)。既存のクロスコネクットが片方向の場合、終端地点 (レグ) は TO-AID 終端地点になります。それ以外の場合、TO は重要ではありません。FROM と TO は、ENT-CRS コマンドで入力されたとおりに入力する必要があります。RTRV-CRS コマンドを発行して、FROM および TO パラメータにレスポンスを使用できます。
<b>WHY</b>	削除理由 パラメータ タイプは WHY (削除理由) です。
• END	ロールするレグの廃棄 (ENT-ROLL コマンドで RFROM により識別されるレグ)
• STOP	ローリング操作は削除され、前のコンフィギュレーションに戻されます。

## 10.15 DLT-ROUTE

Delete Route (ルートの削除)

**使用上のガイドライン** このコマンドは、静的ルートを削除します。

**カテゴリ** システム

**セキュリティ** プロビジョニング

**入力形式** DLT-ROUTE:[<TID>]::<CTAG>::<DESPID>;

**入力例** DLT-ROUTE:CISCO::123::10.64.72.57;

**入力パラメータ**

パラメータおよび値	内容
DESPID	宛先 IP。タイプは string です。

## 10.16 DLT-ROUTE-GRE

Delete Route Generic Routing Encapsulation (ルート Generic Routing Encapsulation [GRE; 総称ルーティング カプセル化] の削除)

**使用上のガイドライン** GRE トンネルを削除します。

**カテゴリ** システム

**セキュリティ** プロビジョニング

**入力形式** DLT-ROUTE-GRE:[<TID>]::<CTAG>::IPADDR=<IPADDR>,  
IPMASK=<IPMASK>,NSAP=<NSAP>;

**入力例** DLT-ROUTE-GRE:CISCO::123:::IPADDR=10.64.72.57,IPMASK=255.255.255.0,  
NSAP=39840F80FFFFFFF0000DDDDAA000010CFB4910200;

入力パラメータ	パラメータおよび値	内容
	IPADDR	トンネルエンドポイントの IP アドレス。タイプは string です。
	IPMASK	トンネルエンドポイントのサブネット マスク。タイプは string です。
	NSAP	トンネルエンドポイントの Network Service Access Port (NSAP; ネットワーク サービス アクセス ポート) アドレス。タイプは string です。

## 10.17 DLT-TADRMAP

Delete TID Address Mapping (TID アドレス マッピングの削除)

**使用上のガイドライン** ゲートウェイ NE に、TADRMAP テーブル内のエントリの削除を指示します。

**カテゴリ** システム

**セキュリティ** プロビジョニング

**入力形式** DLT-TADRMAP:[<TID>]::<CTAG>:::[TIDNAME=<TIDNAME>],[ADDRTYPE=<ADDRTYPE>];

**入力例** DLT-TADRMAP:TID::CTAG:::TIDNAME=ENENODENAME,ADDRTYPE=IPADDR;

### 入力パラメータ

パラメータおよび値	内容
TIDNAME	TADRMAP から削除するエンティティの TID。タイプは string です。
ADDRTYPE	TADRMAP の IP、NSAP または IP-AND-NSAP エントリのいずれを削除するかを指定します。 パラメータタイプは ADDRTYPE (アドレスが IP アドレスか NSAP アドレスかを指定) です。
• IP	IP アドレス
• IP-AND-NSAP	IP および NSAP アドレス
• NSAP	NSAP アドレス

## 10.18 DLT-TRAPTABLE

Delete Trap Table (トラップ テーブルの削除)

**使用上のガイドライン** SNMP トラップ宛先エントリを削除します。ALL を入力すると、テーブル全体が削除されます。

**カテゴリ** システム

**セキュリティ** プロビジョニング

**入力形式** DLT-TRAPTABLE:[<TID>]:<AID>:<CTAG>;

**入力例** DLT-TRAPTABLE::1.2.3.4:1;

入力パラメータ	パラメータおよび値	内容
	AID	アクセス ID (「 <a href="#">25.1.13 IPADDR</a> 」 <a href="#">[p.25-18]</a> を参照)。トラップ宛先の IP アドレス。数値の IP アドレスだけ入力できます。

## 10.19 DLT-TUNNEL-FIREWALL

Delete Tunnel Firewall (トンネル ファイアウォールの削除)

**使用上のガイドライン** ファイアウォール トンネルを削除します。

**カテゴリ** システム

**セキュリティ** プロビジョニング

**入力形式** DLT-TUNNEL-FIREWALL:[<TID>]::<CTAG>:::[SRCADDR=<SRCADDR>],  
[SRCMASK=<SRCMASK>],[DESTADDR=<DESTADDR>],[DESTMASK=<DESTMASK>];

**入力例** DLT-TUNNEL-FIREWALL:TID::CTAG:::SRCADDR=192.168.100.52,  
SRCMASK=255.255.255.0,DESTADDR=192.168.101.14,DESTMASK=255.255.255.0;

**入力パラメータ**

パラメータおよび値	内容
<b>SRCADDR</b>	送信元 IP アドレス。タイプは string です。
<b>SRCMASK</b>	送信元マスク。タイプは string です。
<b>DESTADDR</b>	宛先 IP アドレス。タイプは string です。
<b>DESTMASK</b>	宛先マスク。タイプは string です。



## 10.20 DLT-TUNNEL-PROXY

Delete Tunnel Proxy (トンネルプロキシの削除)

**使用上のガイドライン** プロキシ トンネルを削除します。

**カテゴリ** システム

**セキュリティ** プロビジョニング

**入力形式** DLT-TUNNEL-PROXY:[<TID>]:::<CTAG>:::[SRCADDR=<SRCADDR>],  
[SRCMASK=<SRCMASK>],[DESTADDR=<DESTADDR>],[DESTMASK=<DESTMASK>];

**入力例** DLT-TUNNEL-PROXY:TID:::CTAG:::SRCADDR=192.168.100.52,  
SRCMASK=255.255.255.0,DESTADDR=192.168.101.14,DESTMASK=255.255.255.0;

### 入力パラメータ

パラメータおよび値	内容
<b>SRCADDR</b>	送信元 IP アドレス。タイプは string です。
<b>SRCMASK</b>	送信元マスク。タイプは string です。
<b>DESTADDR</b>	宛先 IP アドレス。タイプは string です。
<b>DESTMASK</b>	宛先マスク。タイプは string です。

## 10.21 DLT-USER-SECU

Delete User Security (ユーザセキュリティの削除)

### 使用上のガイドライン

ユーザを削除します。このコマンドはスーパーユーザだけが実行できます。権限レベルについては、「ENT-USER-SECU」コマンドの説明を参照してください。

このコマンドを使用して、現在ログインしているユーザを削除することはできません。

DLT-USER-SECU コマンドのシンタックスは次のとおりです。

```
DLT-USER-SECU:[TID]:<UID>:[CTAG];
```

<UID> のシンタックスはチェックされません。<UID> がデータベース内に存在する場合、そのユーザが削除されます。

### カテゴリ

セキュリティ

### セキュリティ

スーパーユーザ

### 入力形式

```
DLT-USER-SECU:[<TID>]:<UID>:<CTAG>;
```

### 入力例

```
DLT-USER-SECU:PETALUMA:CISCO15:123;
```

### 入力パラメータ

パラメータおよび値	内容
UID	ユーザ ID です。10 文字以内の英数文字で指定します。タイプは string です。

## 10.22 DLT-VCG

Delete Virtual Concatenated Group (仮想連結グループの削除)

**使用上のガイドライン** VCG オブジェクトを削除します。

**カテゴリ** VCAT

**セキュリティ** プロビジョニング

**入力形式** DLT-VCG:[<TID>]:<SRC>:<CTAG>:::[CMDMDE=<CMDMDE>][:];

**入力例** DLT-VCG:NODE1:FAC-1-1:1234::CMDMDE=FRCD;

入力パラメータ	パラメータおよび値	内容
	SRC	送信元 AID (「 <a href="#">25.1.12 FACILITY</a> 」 [p.25-17] を参照)。ML シリーズカードは VFAC AID を使用し、FC_MR-4 カードは FAC AID を使用します。
	CMDMDE	<p>コマンド実行モード (強制または通常) を指定します。FRCD を指定すると、VCG メンバーおよび VCG のメンバー クロスコネク트가すべて削除されます。</p> <p>パラメータ タイプは CMDMDE (持続状態に関係なく、指定されたコマンドを強制的に実行する) です。すべてのコマンドは、デフォルトで NORM モードで動作します。ただし、FRCD を指定して、通常はコマンドが拒否されるような状態を、強制的に無効にすることもできます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>FRCD</li> <li>NORM</li> </ul>	<p>通常はコマンドが拒否されるような状態を、強制的に無効にします。</p> <p>コマンドを通常どおりに実行します。コマンドが失敗する可能性のある状態を無効にはしません。</p>

